

滋野地区まちづくり推進会議設立準備会 検討会議 議事録

開催日時：平成23年5月24日（火） 午後7時～午後9時30分

場 所：滋野コミュニティセンター

参集者等：滋野地区活性化研究委員会、滋野地区生涯学習まちづくり推進協議会の構成団体の代表者等

【出席者】

JA 滋野店店長 宮下清行

滋野地区活性化研究委員会会長 吉田周平

滋野地区区長会長（生涯学習まちづくり推進会長） 関 勝人

滋野地区青少年育成協議会会長 後藤富美男（代理：副会長 長岡講二）

滋野小学校 PTA 会長 山辺 修

滋野地区分館長会長 阿倍欣史

道の駅駅長 唐澤光章

保健補導員会滋野地区会長 小川原敬子

民生・児童委員会滋野地区会長 関 茂

【欠席者】

交通安全協会滋野支会長 花岡種男

商工会滋野支会長 小林今朝人

中学校 PTA 支部長会長 山岸美雪

老人クラブ滋野地区会長 青木武人

【事務局】

企画課長 寺島 尊、企画政策係長 小菅武志、主査 織田秀雄

1 会議事項

- (1) 協働のまちづくりの優先的に取り組む事項について
資料に基づき説明
- (2) 小学校区（地区）単位の地域づくり組織の構築について
資料に基づき説明
- (3) 設立準備会の組織構成について意見交換

【阿部】

地方分権が推進される中で、地区へ予算権限を与えるための組織づくりを目指すのか。

【寺島課長】

新たに構築する組織の方向性としては、持続することが可能な組織体制を目指し、ある

程度の予算が執行できる組織を想定している。

【小菅係長】

将来的に地区に予算執行権を持たせることも想定できるが、現時点においては、地区に予算執行権を持たせるための組織づくりを目的とはしていない。まずは、地域課題の抽出・解決、地区内の情報の共有化、希薄化しつつある地区コミュニティの醸成を図るための組織づくりを目指していきたい。

【吉田】

地区の地域づくりを推進する組織が、区長会、活性化研究委員会、生涯学習まちづくり推進協議会の三団体あることが疑問である。生涯学習の一環として、区に対してまちづくりの目標を掲げることに疑問を感じる。生涯学習の推進は大切なことであると認識しているが、公民館活動の生きがいつくりの場と位置付けた方が受け入れやすい。地区の地域づくりを推進するためには、このような組織を統一した方が良いのではないか。一年任期の区長会主導では、地域づくりは発展していかないと思う。また、行政の窓口が統一されていないことも問題である。

【阿部】

- ・ 充て職が多すぎるのではないか。
- ・ 地区全体で地域を考える組織も大切であると思う。

【吉田】

- ・ 市の福祉課と社会福祉協議会の業務の位置付けが分からない。
- ・ これからは地域の福祉問題は大切な課題である。社協を加えて地域づくりを考えていかなければならない。

【唐澤】

行政は、縦割り組織が多く複雑化していないか。一つの相談でも、様々な課に回されることが多くある。地域内で情報の共有化を図ることは大切であると思うが、行政内部でも情報の共有化を図ることが重要であるのではないか。情報の共有化は、地域づくりにおいて最も大切なことであり、地域としても努力していかなければならない。

物事は、自分達で考えなければ進まないことを痛感している。行政に指図されなければ、自分達で考え進めることが可能になり、自主的な運営が可能になる。必要なことは行政と連携し、地域住民は自ら手間を掛けなければ地域づくりはできない。

【関（茂）】

地区に配置される予定の「地域活動支援センター」が全ての相談窓口となるのか。

【織田】

地域活動支援センターの役割は、地区公民館を拠点とした活動しやすい環境を整えることを目的としており、例えば地区区長会の事務局、活性化研究委員会や生涯学習まちづくり活動等の支援や相談窓口等を想定している。

地域課題の抽出や情報の共有化等を目指す組織とは、別に考えていただきたい。

【宮下】

今回の地域組織の構築の構想は、どこかお手本があって始めるものなのか。

【織田】

「市民協働のまちづくり指針」の基本方針に沿った構想であり、どこかをお手本にしたものではない。

【宮下】

- ・先進地を視察することも必要でないか。
- ・構築を目指す組織の権限は、区長会と同等な権限を有するのか。

【織田】

組織の位置付けをどのようにするのかは、これから地域の中で話し合っていきたい。

【宮下】

組織の核となる人の人選が大変になる。また、事務局も予算管理など仕事量が多くなることが予想され、ボランティアで出来る仕事ではないと思う。事務局員など滋野地区で雇って運営していくのか。

【唐澤】

人的支援とは、滋野地区に専門的に人を張り付けてくれるという解釈でよいか。

【織田】

現時点で、事務局がどこまで事務を持つのか具体的には想定していない。例えば、組織の立ち上げ期からある程度運営できるまでの間、事務局業務に携わるということも考えられる。また、事務局の仕事ができる人材を滋野地区で育て、財政面の支援を市が行うという方法もあると思う。

【宮下】

今回の組織は、執行機関の位置付けの要素があるが、そうすると人選が大変である。

【小川原】

様々な団体が地域で活躍しているが、地域住民に必ずしも伝わっていないことが多いと思う。組織が連携を密にして、情報を共有化するという考え方は大切である。

例えば、交通安全運動について、関係団体（安協、PTA等）が期間中活動している。しかし、地域の交通安全は地域全体で考え、活動をすることが「うるおいのあるまちづくり」に繋がるのではないか。このような考えを持ちで「モデル区」として取り組んでほしい。

地域内で情報を共有することは大切であり、また、継続性を持たせた組織づくりが大切であると思う。

【宮下】

地域から意見を吸い上げる仕組みを行政内で検討してほしい。

現在も地域で文化財保護について真剣に考え、行政に投げかけているにも拘わらず、何も進展していない。というケースが多くあるように感じる。

【織田】

今日の会議だけでも、地域課題・行政課題・行政との連携方法など様々な意見が出ている。新たな組織が目指す役割の一つとして、本日のような課題抽出や解決方法についての議論があると思う。今後、行政との連携方法については、検討すべき重要課題であると思う。

【阿部】

地域に根付いた活動ができるような組織でなければならない。地域の意見を出しても、何も反映されないようでは意味がない。地域の意見を吸い上げる体制、地域と行政の連携が密になる組織づくりを期待している。

【山辺】

各団体において、毎年同じ事業の繰り返しであると思う。各団体は、多くの事業をやり過ぎているのではないか。各団体においても、少し活動を整理する必要があると思う。

また、類似する事業も団体同士で連携して行うことも必要ではないか。行政の予算措置方法についても、柔軟性を持った予算執行が可能となるような制度を検討してほしい。（一度事業が減ると予算が減る。従って、無理をして活動しなければならない。補助金を積立ができるような制度の検討）

【唐澤】

確かに行事が多すぎる。市からこの活動を行わないと補助金が出ないということもあり、無理をして行事を行っている面がある。行事の見直しも行っていないと、地域住民の負担になる。また、団体（敬老会等）によっては区、地区、市の組織があるが、本当に必要な組織なのか検討するべきでないか。

【織田】

新しく組織を構築する一方で、組織の統廃合等についても検討していかなければ、地域に受け入れてもらうことができないと感じている。

【寺島課長】

組織の統廃合等についても、地域の皆さんの意見を聞いていきたい。

【小菅係長】

- ・継続可能な組織・地域課題を集約する組織の必要性は皆さんが認識していると感じた。
- ・組織の統廃合、必要な予算の確保、人的支援の面に題があると感じた。
- ・滋野地区の自主性がなければ、組織づくりができるものでないと思っている。

【関（勝）】

現在、地区公民館に週3日社会教育指導員が配置されているが、常に対応できる窓口となるような人的支援をお願いしたい。

【小菅係長】

地区公民館に一人常駐するような体制を検討していきたい。社会教育指導員が兼ねるのか等の人選については、これから検討していきたい。

今回の組織が、1年・2年で構築できるとは思っていない。お互いに意見を出し合いながら組織の構築を進めたいと考えている。

【阿部】

地域に対する予算の縮小を市は考えているのか。

【寺島課長】

地域に対する予算についても、今後検討していきたい。

【小菅係長】

新組織への一定の補助金、人的支援については必要であると思っている。現時点では、具体的な案を持っていない。

【唐澤】

地域づくりは、地域住民がやる気を出して行わないとできない。行政から言われたことだけやっているようでは、地域づくりはできない。

【吉田】

組織、地域予算等の話題となっているが、この目的は何なのかと疑問を感じる。市から地域づくりを押し付けることには、違和感がある。「行政に頼らない地域づくり」という気持ちを地域住民が持ち、地域住民が力を出すことが地域にとって大切である。組織を作って、人的支援や地域予算を目的にするならば、やらない方がよいのではないか。地域づくりのベースは、地域で創っていくことであると思う。旧町村単位の分庁方式の考えに戻ってはならない。

【小菅係長】

地域で自分たちの地域を考えることが重要である。本日は、そのきっかけであると理解願いたい。

【寺島課長】

自分たちの地域をどのようにしようとする組織の構築ということが根本である。

【小川原】

保健補導員と福祉運営委員（社協委嘱）の活動が重なっていることがないか。両組織の位置付けが良く理解できない。

【吉田】

福祉関係について、市からの依頼や社会福祉協議会からの依頼があり複雑である。社会福祉協議会の位置付けが分かりにくい。一本化すべきでないか。

※次回からの検討会議に、本日参集依頼した団体の他、保護者会長、消防分団長、各区長に加わることが了承される。